

か

ら集め、それをもとにメッセージカード作成の計画を作りました。〇〇先生はゴルフにこっ
つ
ているとか、△△先生はカラオケが趣味だという情報を仕入れ、それに関係するようなデ
ザ
インのメッセージカードを作りました。

【卒業記念ボウリング大会実行委員会】

「卒業式の後、親子で楽しめることをしたい」という思いから生まれた実行委員会でした。
ボウリング場との交渉は私が行うこととして、子どもたちの活動内容は、保護者宛のお誘い
の手紙を作る、チーム編成、賞状づくりなどでした。

【クラスコンサート実行委員会】

現任校では以前、最後の音楽の時間に「クラスコンサート」を行うようになっていました。
これまでは、音楽の先生の計画で行われていたものですが、「その計画を自分たちでやりたい」という思いがあり、この実行委員会は生まれました。活動内容は、グループ分け、練習
計画づくり、保護者への案内状づくりなどでした。

【卒業記念学級通信実行委員会】

私自身が学級通信をたくさん書いていたことから、子どもたちが「自分たちも学級通信を
書きたい」といって作った実行委員会でした。どういう内容の通信にするかを考え、大きく
2つのことを提案しました。一つは「自分の成長したこと」で、もう一つは「家族からのメ
ッセージ」でした。できあがった通信は、卒業文集の中に綴じ込んだこともありますし、
デジタルカメラで撮影し、卒業記念CDに画像として焼いたこともありました。

【一人一授業実行委員会】

「自分の得意とすることを授業にしてみんなに教えることで小学校の思い出にしたい」と
いう思いから生まれた実行委員会でした。何を授業するかということをもみんなに考えてもら
い、時間配分をして調整するという活動を行いました。教える内容は様々で、10分間で終わ
ってしまう者がいたかと思えば、2単位時間をかけて授業をする者もいました。児童数37

名

の学級で行った時は、全員の授業が終わるのに3日くらいかかりました。

23号・24号と2号にわたって、これまで取り組んだことのある卒業実行委員会について

紹介してきました。卒業をきっかけに、子どもたちがよりよい学級づくりの総まとめとして

自主的に取り組んだものです。6年を担任されておられる方、ぜひやってみませんか。

2 学級通信を考える～その9：授業記録・活動記録を載せる

山口市立平川小学校 梶田崇晴

学級通信の中でかなり多くの紙面を使っていたのが、この「記録」に関するものでした。

20年くらい前、授業記録を学級通信に載せることが流行りました。私もこのことには賛成でした。その理由として、まず自分自身の記録として残すことができること、そして、教師の頑張りをさり気なく親にアピールすることができることをあげたいと思います。

記録を書くにあたっては、教師の発問・指示と児童の反応、それに子どもたちのつまずきの例も書くようにしました。その場合、そのつまずきのおかげで学級の全員が成長できたことと同時に、つまずいた子自身も成長したことを必ず書くようにしました。

私の場合、学級会の記録というものを大事にしたいと思っていました。というのは、学級会こそ学級づくりがうまくいっているかどうかのバロメーターと考えているからです。どんな議題が出され、どう処理されたか。計画委員会の計画はどう進められたか。話し合いはどう進められたかなどを記録していきました。これは自分や子どもにとってはいい記録になったようですが、保護者にはあまり評判がよくなかったです。しかし、だからこそ「学級会の存在」を保護者に知らせる必要があると思い、書き続けていきました。教科指導に傾いている親の関心度を、少しでも学級づくりの大切さに目を向けさせる必要があると考えています。

イベントの記録もよく書きました。このイベントは学級通信を書くのに大きなネタとなりました。イベントでは、「企画→準備→実践→反省」というサイクルを通して様々な子どもの活動を仕組むことができます。それを連載形式で書くことによって、子どもたちが自分たちのがんばりを自覚することにもつながっていくと思っています。またこの記録は、自分自身の実践記録ともなります。特に、イベント活動を通して責任感・協力することの大切さ・思いやりなどのねらいを達成させようと考えていましたので、そのことを中心に書くようにしていました。最近は印刷機の性能の向上で、鮮明な写真を載せた記事を出すことができるようにもなりました。そのことにより、文字面だけでなく、より具体的に記録を残したり、保護者に伝えることができるようになったように思います。

3 中国学級活動ネットワークin米子 報告 その2

2回目は、「持ち込み実践 その1」として、鳥取県境港市立境小学校の乗本先生が発表された特別活動の評価について、報告してみようと思います。

乗本先生は、「集団活動をどのように評価していったらいいのか」という観点で実践に取り組まれていました。

乗本先生は、「個人」「指導方法」「指導計画」「集団」の4つを評価の対象として考えられているということでした。このたびの実践で取り上げられたのは、「望ましい集団活動」ということで、学級目標の評価についてでした。

学級目標というものは、「作っただけで終わり」という話もよく聞くのですが、そこに視点を当てられたところが、たいへん参考になるものでした。

評価の方法としては、活動を観察して場面ごとに記録をしていくということと、振り返りカードを活用するというを紹介されました。振り返りカードというものは（実物を見ていただけないのが残念ですが）、「自分しんだん」と「学級しんだん」に分かれていて、4つの学級目標「元気」「やさしい」「なかよし」「がんばる」について6段階で評価するところと、「これをがんばろう」というところに自由記述で書くという評価の欄があるものでした。

その点数の部分を図に表したものが紹介されましたが、4月、5月と進んでいくうちに、「自分プラス・学級プラス」の領域に入る子どもたちが多くなっていったのが分かりました。

先生の発表のあと、質疑の時間が取られたのですが、その中で、「なぜ6段階評価なのか」「自己評価は難しいのでは」「学級目標評価の観点は何なのか」「数字は危ないので気をつける必要がある」などの質問や意見が出され、それをもとに活発な意見交換がなされました。

次回は、赤坂先生、八巻先生の講座の内容を紹介します。

4 メルマガ編集部からのお知らせ

◆次号の予告◆◇◆

第25号は2月中旬ごろ発行予定です。

次号から、「係活動」についての連載を始める予定です。

原稿の投稿がありましたら、そちらを優先することがあります。

◆山口学級活動ネットワーク メールマガジンの登録について◆◇◆

現在の購読者は128名です。もっともっとメルマガ仲間が増えるといいなと思っ

ています。

お知り合いの方にこのメルマガを紹介してもらえませんか。

登録については、山口学級活動ネットワークのホームページをご参照ください。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆山口学級活動ネットワーク ホームページについて◆◇◆

過去のメールマガジンをホームページ上で見ることができます。

これまでは、号数からしか検索できていませんでしたが、このたび、内容から検索できるようにして欲しいという要望がありましたので、ホームページ担当の吉田先生が作り替えてくれました。

url: <http://www.yamakoshu.org/gakkatu-net/>

◆ブログのお知らせ◆◇◆

学級づくりについて、特別活動の実践を絡めながら、チョット思ったことや考えたことを綴るブログを書いています。なかなか調子よく進んでいます。もし興味ある方はのぞいてみてください。

<http://edublog.jp/moomin/>

=====

山口学級活動ネットワーク メールマガジン

☆ご感想・ご意見はsugi-net@c-able.ne.jpまで

☆編集・発行 山口学級活動ネットワーク メールマガジン編集部

梶田崇晴（山口市立平川小）

津村元文（防府市立西浦小）

能勢雅子（山陽小野田市立高千帆小）

吉田哲朗（山口大学附属山口小）

=====